

霊操と身体性
sentir (感じる) と (霊的) 感覚と 〈気づき〉

2022年5月29日(日)
イエズス会司祭 小暮康久

1. 「霊操」とは・イグナチオの「体験知」に基づく実践の書
2. イグナチオの「体験知」としての「霊操」
3. 「霊操」理解のキーワード「sentir (感じる)」と身体性の領域
4. 「sentir (感じる)」は「霊的な識別」の土台となる「霊的な感覚」に通じていく
5. 存在全体（霊と心と体）が静まっていくことと 〈気づき〉
6. 存在全体が静まっている「場」に在るイエスの〈気づき〉
7. 人間の三元論（霊・心・体）的構造
「感覚」は、精神性（心）と物質性（体）の接点。（霊）による〈気づき〉
8. 人間の三元論（霊・心・体）的構造と肉（サルクス）と霊（ pneuma ）の現実
9. 人間の三元論（霊・心・身体）的構造と罪（的外れ）からの解放—救済
何故、「霊操」において sentir (感じる) と (霊的) 感覚と 〈気づき〉が大切なのか
を図解的に理解してみる
10. 図Ⅰ－1 テサロニケにみる人間の三元論
11. 図Ⅱ－肉：自己中心性による罪（的外れ）
12. 図Ⅲ－キリストの受肉による解放
13. 図Ⅳ－霊的感覚と〈気づき〉の場
14. まとめ

人間の三元論（霊・心・身体）的構造と罪（的外れ）からの解放

神（愛・アガペ・慈悲）：esse 存在そのもの

